

イエスの祈り ヨハネによる福音書 17:1-5

1. イエスはこれらのことを話してから、目を天に向けて、言われた。「父よ。時が来ました。あなたの子があなたの栄光を現すために、子の栄光を現してください。(17:1)
 - a. イエスの地上での生涯とミニストリーが終わりに近づくと、イエスは公の場で長い祈りをささげ、自分自身のため、使徒たちのため、そしてすべての信者のために祈られた。今日はイエスがご自分のために祈られた祈りを見ていこう。
 - b. イエスが自分自身のために祈られたというのは興味深い。私は自分の必要などのために自分についての祈りをする時、なんとなく身勝手なんじゃないかというような気持になることがある。したがってこの地上を歩いた最も聖なるお方でさえ自分自身のために祈られたというのはなんだかほっとするのである。しかもこの祈りの中では自分自身の祈りが一番初めに来ている(イエスのすべての祈りがそうだったわけではないし、私たちの祈りもそうであるべき、というわけではない)。
 - c. この時のイエスの姿勢に注目しよう。「目を天に向け」、直接天の父に、「時が来たので」祈りをささげられている。福音を通してすべての事には時があることが語られている。すべての事が自動的に正しい時に起これば良いが、御言葉にはそれは私たちが信仰を持って従順に従う時に起こると書かれている。

2. それは子があなたからいただいたすべての者に、永遠のいのちを与えるため、あなたは、すべての人を支配する権威を子にお与えになったからです。その永遠のいのちとは、彼ら他が唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知ることです。(17:2-3)
 - a. 神の栄光をほめたたえるとは、単に私たちが良い気分になり自己満足に浸ることではない。変に聞こえるかもしれないが、私たちは皆少なからずそのようなことを望んでいる部分がある。
 - b. 「子の栄光を現してください」とはどういうことだろう? 神がイエスの本来のご性質を回復させ、イエスの使命であった永遠のいのちを与える権威を回復させることであろう。
 - c. 永遠のいのちとは、ただ私たちが永遠に存在するというよりも、神を天の父として、そしてイエスを神のひとり子 救い主として親密な個人的関係を持った質のあるいのちのことである。
 - d. イエスが与えるこの永遠のいのちとは、アダムとイブがエデンの園で关系的に神を知っていた時の初めの人間の形である。

3. あなたがわたしに行わせるためにお与えになったわざを、わたしは成し遂げて、地上であなたの栄光を現しました。今は、父よ、みそばで、わたしを栄光で耀かせてください。世界が存在する前に、ごいっしょにいて持っていましたあの栄光で耀かせてください。(17:4-5)
 - a. 究極的にはイエスが求められていることはご自身の栄光が現されることではなく父なる神の栄光がほめたたえられることである。
 - b. 神の栄光がほめたたえられるとは、人間が失ってしまった神との関係を本来の親密な関係にイエスが回復させてくださること、また父なる神から与えられた使命をイエスが従順に行ない成し遂げられることである。
 - c. 同様に、私たちの人生にも与えられている使命やコーリングがある。イエスがご自身の使命やコーリングを祈りを通して御父にゆだねたように、私たちもつねに父なる神に求めゆだねていこう。